

## 〈 目 次 〉

1. 高校生プロジェクトに、ご支援いただいた皆様へ	P 1
2. 第3回高校生プロジェクトの概要について	P 2
3. 売上金の使いみちについて	P 4
4. 活動支援金（協賛金）にご協力いただいた団体・会合	P 4
5. 高校生プロジェクト、今年度の取り組みの流れ	P 5
6. 東北の物産紹介	P14
7. 展示「東北の今」被災地のことを忘れないために	P29
8. ≪番外編≫プロジェクトの様子（スナップ写真）	P35
9. プロジェクトに取り組む高校生へ 被災地へのメッセージ（抜粋）	P37
10. 決算報告書	P39

# 1. 高校生プロジェクトに、 ご支援いただいた皆様へ

「第3回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」

実行委員長 藤原 あおい

(北海道岩見沢農業高等学校 3年)



岩見沢市内の高校生が中心となり、東北復興のための取り組みである「第3回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」が無事終了しました。

今年度も昨年度と同様に岩見沢市内の高校4校（岩見沢農業、岩見沢東、岩見沢緑陵、岩見沢高等養護）のボランティア部・生徒会で協力して第3回目がスタートしました。今年度は、三つの新たな取り組みを行いました。

ひとつは、物産販売の売り上げを「東日本大震災子ども支援 ユネスコ協会就学支援奨学金」に寄付していますが、それが、被災地の中高生にどのように使われているか、また、今までのこのプロジェクトがどのようなものであったかを岩見沢市民の方と今年度このプロジェクトに参加する高校生で確認する「活動 ♥ 寄付の使いみち報告会」をおこないました。この報告会のために日本ユネスコ協会連盟事務局の方に講師をお願いし説明していただきました。二つ目に、販売商品をより理解し販売会に臨めるようにプロジェクト参加生徒で「試食会」を行いました。三つ目として、「東北の今を伝えるパネル展」を行いました。

プロジェクトも3回目となり全体的にスムーズに活動できたように思えます。商品決定から販売までの一連の作業はとても大変でしたが、毎年届く東北の方からの声に励まされ活動は支えられています。そして、取り組みの中で私たちも貴重な経験をすることができました。

今年のメイン販売会は、例年とは違い大和タウンプラザで行い、体験コーナーも設けました。体験コーナーは子ども達の活気であふれ、販売会に取り組んでいる私たちに元気をもらうことができました。また、商品を購入していただいた方に「がんばってね」「これからも続けていって下さい」と言われる度に、うれしく、この活動の一員であることを誇りに思っています。このメイン販売会で今年は、仕入れをした14種類の商品をすべて完売することができ、集大成となるこの日のために、これまで活動してきてよかったと心から思いました。

このプロジェクトを実施するにあたり、私たち高校生の力だけではできませんでした。生産者の皆様、私たちが困ったときに手を差し伸べてくれた関係者の皆様、そして、このプロジェクトを行う上で最も重要な支援金をいただいた皆様、商品を購入していただいた皆様、本当にありがとうございました。「人の温かさ」を身にしみて感じました。人のために活動することで感謝され、同時にこの活動は私たち自身に感動を与えてくれました。

東日本大震災から4年たった今、メディアでは3月11日に東北の現状が報道されます。しかし、その日以外にはあまり目にすることはありません。ですから、私たちの活動を通して東北の現状を考えるきっかけとなれればと思っています。このプロジェクトを行っていく上でいくつかの課題があると思います。しかし、諦めず協力し合い、さらに良い復興支援活動になるように、これからも後輩の高校生には続けていってほしいと思っています。

最後に、このプロジェクトがどのようなものであったかを分かりやすく、この冊子では、まとめてありますので、どうぞご覧ください。